

学校を休み始めた子供への組織的・計画的な支援の充実

1 特集について

東京都における、不登校児童・生徒が在籍する学校数は、小学校で全体の98.3%、中学校で全体の98.9%となっています。不登校の要因は「無気力・不安」、「生活リズムの乱れ、あそび、非行」、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」、「親子の関わり方」、「学業不振」と多岐にわたり、きっかけそのものが「わからない」と回答する児童・生徒も少なくありません。

不登校児童・生徒への支援を考える上で必要なのが、不登校の背景にある要因を多面的かつ的確に把握し、早期に適切な支援につなげるアセスメントの視点です。教職員一人一人が児童・生徒に寄り添い、その気持ちを受け入れ、学校全体でチームとしての支援を行う体制の充実を図ることが重要です。

そこで、本特集では、学校を休み始めた子供の変化を組織的・計画的な支援につなげる早期支援の取組例及び多摩地区の支援実施例について紹介します。

2 紙面の活用について 本特集は [こちら](#) から

不登校の理解及び支援の方向性と各段階を示しています。

これまでの不登校に関連する特集及び東京都の不登校・中途退学対策を紹介しています。

多摩地区の不登校児童・生徒への効果的な支援事例を紹介しています。

子供の变化を基にした、学校の組織的・計画的な支援の流れを示しています。

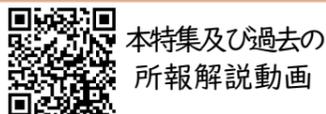
「支援シート」のダウンロードはこちら [\(使い方があり\)](#)

御意見
ください

所報「たまじむ」において、多摩地区の学校及び市町村教育委員会のニーズに応える特集を予定しております。つきましては、特集内容に関する御意見をいただきたく、御協力をお願いいたします。

↓アンケートフォーム↓

こちらからも該当のアンケートフォームへ直接アクセスすることが可能です



本特集及び過去の
所報解説動画

学校を休み始めた子供への組織的・計画的な支援の充実



過去の所報
「たまじむ」

不登校に対する支援は、子供が自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立する方向を目指すように働きかけることが求められており、予兆への対応を含めた初期段階からの組織的・計画的な支援が必要です。本特集では、学校を休み始めた子供への組織的・計画的な支援の充実について紹介します。

不登校

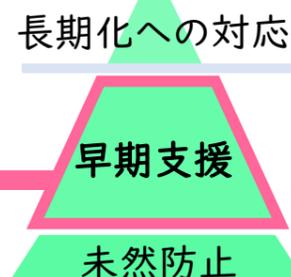
- 人間関係が崩れたり、勉強がわからなくなったりするなど、様々な要因・背景の**結果として起きた状態**
- 「**問題行動**」ではない
- 取り巻く環境によって、**どの子にも起こり得る**

大人は、子供の立場になって考え、関わる

- 子供を支える大人たちが
- ・ 不登校の子供たちに**寄り添うこと**
 - ・ **共感すること**
 - ・ 思いや考えを**受け入れること**
- が重要



学校における支援



関連する たまじむ

第76号

(ICTの活用)第81号

H29
第1号

第87号

東京都教育委員会
Board of Education

不登校・中途退学対策



毎日見ているという強みを生かして・・・子供の変化を**組織的・計画的な支援へ**

日常的な取組

- 担任等による子供たちへの声掛けや相談
- 保護者への連絡・状況の聞き取り など

情報収集

休み始めの子供の変化(例)

- 理由がよく分からない欠席等が増えている
- 登校をためらっている ○ 教室に入りたがらない など
- 保健室へ行く回数が増えている

情報共有

速やかに管理職に報告・連絡・相談 **組織的な支援**

子供・保護者との相談や情報共有

- 教職員が連携し、「支援シート」に情報を書き込む

アセスメント※の開始・「支援シート」の作成

※ 支援の対象となる子供の情報の収集・分析を行い状況を把握すること

支援開始

支援方策の検討【支援会議(第1回)】

- 作成した「支援シート」の活用
- 方針を決定し、支援を開始

構成メンバー(例)

管理職、担任、学年主任、養護教諭、不登校担当教員、
スクールカウンセラー(SC)、
スクールソーシャルワーカー(SSW)等



計画的な支援

【支援会議(第2回以降)】

一定の期間後、再度会議を開き、本人の状況の確認や支援内容の修正を行う

支援の実施

支援シート

| | |
|----------------------|-----|
| 本人 | 保護者 |
| 思い 願い 短期 目標 | |
| | |
| | |

本人や保護者の思いや願い等を共感的理解と受容の姿勢で話を聞きましょう。

作成の目的

子供の状況を的確に把握し、関係機関で情報共有し、組織的・計画的に支援を行う

子供の多角的な支援に役立ちます。

- ・ 必要な情報を集約
- ・ 学校内や関係機関で共通理解
- ・ 進学先、転学先等への適切な引継ぎ

作成者

学級担任を中心に養護教諭、SC、SSW等が連携して学校が組織的に作成



「支援シート」のダウンロードはこちらから (使い方ガイドあり)

多摩地区の支援実施例

関係機関につなげる支援体制づくり

支援委員会にてSC及びスクールサポーター、教育委員会の相談員と共に、支援を検討している。また、サポーターが子供、保護者へ家庭訪問等を行うなど、担任以外のアプローチを行っている。



スクールソーシャルワーカー(SSW)の活用

校内委員会でケースを検討し、SSWが保護者と学校・SC・医療機関をつなぐ役割として直接介入。SSWの家庭訪問を通じ、子供との関係を築き、保護者の困り感を聞き取り、外部機関を紹介するなどしてつながりを強めた。

校内別室の活用

教室に入りづらい生徒のため、学習や対話を行う別室Aに加え、家から出ることを目標に自由に登校できる別室Bを新設し、安心して通える環境づくりを整備した。



居場所の選択

子供の状態に応じて、相談室・プレイルーム・保健室の3か所で、学習内容と場所を選択できるようにした。各居場所では、生徒の様子を記録し、全教職員で共有している。

